

Vila Real de Santo António

について



写真: Odiana

ヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオ

16世紀に、ヴィラ・デ・サント・アントニオ・デ・アレニーリャ (Vila de Santo António de Arenilha) という町がありました。おそらくもっと海に近いところにあったのでしょう。18世紀までにはその町は海と砂にのみ込まれ、消滅してしまいました。しかし、グアディアナ川 (Rio Guadiana) をさかのぼる商品の流入を管理すると同時に、モンテ・ゴルド (Monte Gordo) の漁業を国王の監視下に置き、1762/63年にポルトガルと戦争状態にあったスペインに対して防御を固める必要がありました。

したがって、経済的にも政治的にも明確な利点をもたらすヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオ (Vila Real de Santo António) の建設は、単なる国王の思いつきではありませんでした。

1755年の地震後のリスボン復興において成功した実験がヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオで再び行われました。まず、都市の構造を格子状にするために綿密な計画が立てられましたが、土地の地形が平坦であったことがこうした構造を容易にしました。次に、厳密な建築物の単位に従いました。そして最後に、リスボンから船で運ばれ、すぐに布設できるように四角に切削、成形された石など、事前に加工された標準的な建築用ブロックが使用されました。

ヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオに適用された都市計画を理解するためには、町の通りを歩いていただく必要があります。町の中心にあり、1776年に建てられた中央のオペリスクから放射状に黒と白の敷石が広がるマルケス・デ・ポンバル広場 (Praça Marquês de Pombal) から出発してください。この広場には18世紀の主要都市に通常見られる3つの特徴的な建物、すなわち教会、市庁舎、および衛兵所があります。その後は数ブロック歩き、民間に委託されていますが、なお明確な建築方式に従って作られた建物をご覧ください。

最後は、グアディアナ川の川岸に沿って植物が植えられている庭園の隣にある旧税関でツアーを終えることをお勧めします。